

はじめに

1. 本書のねらい

『Voices from Japan: ありのままの日本を知る・語る』は、日本で生活している人々の生の声を収録した、ディスカッション用の素材集である。

本教材は中級～上級レベルを対象としている。本書は、働くこと、生き方、親子関係、結婚や教育など、身近な話題を提供しているので、専門知識がなくても、学習者が自分自身の経験と照らして、それらの問題について気軽にクラスメートと話したり、考えたりできるように配慮してある。また、内容もステレオタイプに陥らないように、地域・登場人物・トピックに多様性を持たせるよう配慮した。

学習者はこの教材に現れる内容をめぐって、クラスメートと意見交換しながら、日本語によるコミュニケーション能力を伸ばしていくことができる。また、本書が日本語能力ばかりでなく、それらの問題について、学習者がさらに考察し、問題意識を持ち、展開させていく力を育むことの助となることができると願う。

本書に登場する人たちの声は、インタビューあるいはEメールの中から抽出したものであり、ひとつひとつを「Story (ストーリー)」という名称で紹介している。著者は、このインタビュー取材にあたって、本州は最北端にある下北半島から、瀬戸内海に浮かぶ孤島まで、日本全国11ヶ所を廻り、これらのストーリーを収録した。インタビューの中には、ときに路上で前触れなく直撃的に行ったものもあるが、ほとんどは紹介者を通じて事前に連絡をとり、家庭、大学の構内、職場、レストランなどで行ったものである。

福島大学のキャンパスで放課後に会った4人の学生とは、親子関係や自立、結婚や理想の相手について2時間にわたって意見を交わした。愛知県では、インドネシア人の夫を持つ日本人女性水田さんにお会いした。水田さんは日本でイスラム教徒として暮らすことの難しさを切々と語ってくれた。また、同じ愛知県に住む聴覚障害者のKazuoさんとは、長期にわたりEメールの交換をした。本書

には、それらの文章の中からストーリー性のある部分を抜粋して収録してある。東京では、難民として日本に定住したベトナム人フォンさんが、言葉や親子関係について語ってくれた。

上記のように、ストーリーに表現される視点は、とりわけ「日本的」というわけでもなく、個性豊かで、国境を越えて多くの社会に共通する現代的課題を含んでいる。著者は、学習者が触れる「文化」とは、必ずしも日本の政治や歴史といった(従来の「日本事情教育」で扱われてきたような)静態的・体系的知識ばかりではなく、もっと動的なもの、すなわち自分たちと等身大の、血の通った「人間」の営みや想いであるということに、この素材集を通じて気づいてくれればと願っている。

本書では、生の話し言葉を本文に使っているため、内容が断片的になりがちで、言葉もたどたどしく、言葉の形としても不完全であることが多い。この意味で、日本語テキストとしては、従来にない新しい試みであるといえる。敢えてこのような素材やスタイルを採用した理由は、論説やエッセイのような書き言葉に比べ、話し言葉は学習者を身構えさせず、より短い時間で中心テーマに到達できると考えるからである。この教材を通じて、学習者は徐々にディスカッションへの自信を育てていくものと確信する。そして、自信がつけば、表現力も自ずとついてくるはずである。日本語教育の現場は、長い時間をかけて、著者にそのことを教えてくれた。

2. 言語について

本書には、通常の教科書の会話文にほとんど登場しないような、様々な話し言葉の特徴、例えば、フィラー(意味を成さない音・言葉)、繰り返し、言い換え、省略形、短縮形、方言、俗語、辻褄が合わない不完全な文などを、そのまま残して収録した。インタビューは、その音声をCDにまとめ、原則として、本文は音声教材に沿ったものとして残した。本書に収められたストーリーは、ネイティブ・スピーカーが話す日本語も、必ずしも「理路

整然として完璧なもの」ではないということを、如実に示している。

3. 本書の内容と構成

□登場人物紹介(プロフィール)

プロフィールに載せた写真と使用名は本人たちの許可を得て、実物・実名を使用している。ストーリーを読む前に、まず登場人物について、読んでおくことをお勧めしたい。

□Story (ストーリー)

合計41のストーリーは、次のような8つのテーマにグループ分けした。各テーマの扉ページには、それぞれのストーリーを通してさらに社会・文化的に考察・発展させることができるようなフォーカス・トピックを提示したので、参考にされたい。

(story数)

テーマ1. 人生、働くことについて	(7)
テーマ2. 家族について	(4)
テーマ3. 結婚について	(4)
テーマ4. 教育について	(5)
テーマ5. 言葉について	(5)
テーマ6. 若者と社会	(8)
テーマ7. 文化の狭間で	(4)
テーマ8. 地域について	(4)

ストーリーは、短いものは200字程度、長くても1,000字弱である。長いインタビューからは複数のストーリーが生まれ、登場人物によっては、いろいろなテーマに繰り返し登場する。インタビューのほとんどはテープに録音したが、録音が不可能な場合はメモ書きしたものを要約し、ストーリーにまとめた。また、事情があって直接インタビューできなかった人たちとのやりとりには、Eメールを使った。本文に現れるストーリーは、次の4つの形式に分けられる。

形式A	インタビューされた人同士の会話
形式B	インタビューされた人と著者の会話
形式C	モノローグ
形式D	Eメール文書

また、ストーリーの本文をふまえ、テーマの理解を促すための質問、テーマを展開させるためのディスカッション、インタビューやリサーチ・プロジェクト用のトピックを提示した。

[Step I : キーワード] [Step II : 内容確認] [Step III : ディスカッション] [発展活動 : リサーチプロジェクト/インタビュープロジェクト/ディベート/作文プロジェクト] [Word List] の順になっている。ストーリーによっては補足説明の [Note] がつく場合がある。

□巻末 ディスカッション・発展活動一覧表

各ストーリーのディスカッショントピックや発展活動を一覧で示した。

□音声教材 (CD)

このCDは上記のストーリーのうち形式A, B, Cの生のインタビューをそのまま収録したものである。そのため、スタジオで録音した音声教材とは違い、背景の雑音や本人の話のスピードまたは音質の点で聞き取り教材としては向いていない。登場人物の声や話し方、インタビューの現場の雰囲気をつかむために使用されたい。

4. 本書の使い方

[Step I キーワード]

どんな学習の場でも、学習者が身構えず不安や緊張感を覚えないように、簡単な動機づけのアクティビティを通して「学習」が行われるようなコンテキスト作りが大切である。そのための簡単なウォーミング・アップ用のアクティビティに、本書では、キーワード(3単語要約)を起用した。

まず、ストーリーの中から、個々でキーワードと思われる言葉を、学習者に3つ選ばせる。次に、それを他のクラスメートと比べさせる。この2段階の作業を通して、学習者は、少なくともそのストーリーの中心テーマが何であるかを把握することができる。これは、学習者をストーリーに馴染ませるのに大変効果的なアクティビティであり、正解も誤答もないため、学習者に焦りや緊張感を与えないよい方法である。

[Step II 内容確認] ストーリーを理解する

Step 1の後、学習者にそのストーリーの内容について考えさせる。

[Step III ディスカッション]

(意見交換：小グループ)

Step 2の後、トピックを使って、小グループでディスカッションをさせる。この段階では、自分たちの経験や私見のみで十分である。グループディスカッションの後、必ず話し合った成果を口頭または書いてまとめさせることが大切である。

[発展活動]

(課外または授業内タスク：個人またはグループ)

この発展活動のフォーマットは、課題の内容にあわせてリサーチ・プロジェクト、インタビュー・プロジェクト、ディベート、作文プロジェクトの4つのタイプに分けた。課題の中には、個人的な経験や意見をまとめるエッセイ(作文)方式のように手軽に授業時間内でできるタイプと、ある程度の日数をかけるプロジェクト・ワーク形式のものがある。プロジェクトは、学習者が主体的に調査し、その結果を1つの作品(口頭またはレポート)にまとめる学習活動である。そのためその事前の環境作りが必要となってくるため、コースの全体シラバス・期間の長さにあわせていくつか選び、組み込むとよい。コースの目的に応じて活動に必要な言語技能を適意に変えて使うこともお勧めしたい。

[凡例]

casual 縮約形やカジュアルな表現や若者ことばを表す。

dialect 地方の方言を表す。

CONTENTS

目次

FOREWORD 2 / はじめに 3 / 登場人物紹介(PROFILE) 8

Theme
1 人生、働くことについて 15
LIFE & WORK

- story **1** 何のために稼ぐのか 16
🔍中西道也 29歳/目黒区
- story **2** ごく普通に平凡に 17
🔍筒井綾 21歳/高知県
- story **3** 夏休みは徹底的にバイト 18
🔍小山千夏 23歳/川崎市
- story **4** 寝ない日が二日ぐらいあることも 20
🔍熊谷洋三 55歳/大間町
- story **5** 何が普通なのや 22
🔍KAZUO 30歳/名古屋
- story **6** ささやかな夢 24
🔍フォン 30歳/品川区
- story **7** 好きでホームレスやっていないよ 26
🔍山下 50歳代/川崎市

Theme
2 家族について 29
FAMILY

- story **8** 家族が一番大事 30
🔍フォン 30歳/品川区
- story **9** 母だけにカムアウト 32
🔍KAZUO 30歳/名古屋
- story **10** 鍵っ子多かったです 33
🔍タケシ & ヒロ 22歳/福島県
- story **11** もう家族との暮らしには戻れない 35
🔍良子 22歳/福島県

Theme
3 結婚について 37
MARRIAGE

- story **12** 結婚は遅くていいかな 38
🔍タケシ & ヒロ 22歳/福島県
- story **13** 補える関係がいいです 40
🔍良子 & 由美子 22歳/福島県
- story **14** 全部 50 : 50 で 42
🔍タケシ & ヒロ 22歳/福島県
- story **15** 結婚後の苗字は? 43
🔍ソドスチン & 小田 40歳・29歳/仙台市

Theme
4 教育について 45
EDUCATION

- story **16** しつけは先生より先輩から 46
🔍タケシ & ヒロ 22歳/福島県
- story **17** 学級崩壊までは行かなかったけど 48
🔍タケシ & ヒロ 22歳/福島県
- story **18** 大学4年間で私は何を 50
🔍平井由基 20歳/豊島
- story **19** 学生らしい学生 51
🔍周艶陽 27歳/仙台市
- story **20** 厳しい受験勉強 53
🔍周艶陽 27歳/仙台市

Theme
5 言葉について 55
LANGUAGE MATTERS

- story **21** カワイイって言いすぎ 56
🔍 良子 & 由美子 22歳 / 福島県
- story **22** 曖昧表現がいっぱいで 58
🔍 周艶陽 27歳 / 仙台市
- story **23** 最近はもう全部メールで 60
🔍 ハツミ & タケロウ 24歳 / 川崎市
- story **24** 嫌いな言葉 62
🔍 KAZUO 30歳 / 名古屋市
- story **25** 訛ったほうがいいよ 64
🔍 手塚 & 納谷 30歳 / 大間

Theme
6 若者と社会 67
YOUTH & SOCIETY

- story **26** 高校生なのに 68
🔍 良子 & 由美子 22歳 / 福島県
- story **27** 誰の責任? 69
🔍 良子 & 由美子 22歳 / 福島県
- story **28** キレル時ありましたよ、俺 70
🔍 タケシ & ヒロ 22歳 / 福島県
- story **29** 死ぬ前にやめてよかった 72
🔍 島田直弥 30歳 / 千葉県
- story **30** まわりの目があるから 74
🔍 山口ユキ 20歳 / 小豆島
- story **31** 一個ももらえなかったことも 76
🔍 ハツミ & タケロウ 24歳 / 川崎市
- story **32** 男だってきれいになりたい 78
🔍 タケシ & ヒロ 22歳 / 福島県
- story **33** 言うだけっていう感じ 80
🔍 後藤梨絵 20歳 / 小豆島

Theme
7 文化の狭間で 83
BETWEEN CULTURES

- story **34** 先入観に縛られないで欲しい 84
🔍 鮎田栄一郎 30歳 / 中央区
- story **35** 日本と韓国がミックス 86
🔍 原田聖恵 52歳 / あきるの市
- story **36** うまくコミュニケーションとれない 88
🔍 フォン 30歳 / 品川区
- story **37** 「ちょっとならいいじゃん」と言わないで 89
🔍 水田有紀 30歳 / 蟹江市

Theme
8 地域について 91
COMMUNITY

- story **38** Uターンで戻って 92
🔍 手塚由一 30歳 / 大間
- story **39** 島に残った人は10人ぐらい 94
🔍 山口ユキ 20歳 / 小豆島
- story **40** ゴミの島とか言われて 96
🔍 平井由基 20歳 / 豊島
- story **41** 売れんようになってしもうた 97
🔍 砂川三男 73歳 / 豊島

ディスカッション・発展活動一覧表 99

参考文献 104

謝辞 105



フォン

30歳 / 品川区
しなのがく

フォン： 悲しいと言ったら、やっぱり家族の中でのめめ事ことですかね。うーん。
 やっぱり、家族単位で、まあいろいろ苦勞くろうしてね、ここまで来たんで。
 そこから、なんか、その中からちょっとしためめ事とか、お互いの気持ちがちよっと
 離れてくるとやっぱりちょっと悲しくなりますね。
はな

インタビュー： うれしいことは？

フォン： うれしいことは…、そうですね、家族の中で誰か一人がいいこと起きた時とか。

インタビュー： やっぱり家族がすごく大事。

フォン： はい。

日本人の家族観かんについて思うこと

フォン： たまに、なんか、あの一、親がスゴイ大事とかそういう話しとかすると、
 うーん、ちょっとたまに食い違くちがう意見とか、あったりしますね。
 最初の頃は、私も会社終わったあとの金曜日は、もう、実家の方に帰るんですよ、
 実家に帰るんで。
 最初のころは、やっぱり会社の人たちが「フォンさんは、もう帰る場所は実家しかない
 んだね。親しかないんだよね～」みたいな。親が大事で何が悪いのかなあって思うん
 ですけど。
 まあ、ベトナム人、みんながみんな家族を大事に思っているかどうかわかんないん
 ですけど。どっちかというと、ベトナム人は日本人より(親を)思いますよね。うん、だ
 からそこが違うから、彼女たちに話しても無理かなどか思って、あんまり話さない
 んですけど。

インタビュー： じゃあ、話合う人って、やっぱりなかなかいないでしょ？

フォン： そうですね。でも、中にも、日本人で親がスゴイ大事という人もいますよ。
 やっぱり、いったん、あの一、自分の親から離れて、例えば、違う国に行ったりとか。
 すごい大金払たいきんはらって留学りゅうがくさせてくれたことですごく感謝かんしゃしてて、で、帰って来ても、
 親孝行こうこうしたいっていう日本人の友達もいます。

ステップⅠ キーワード

ストーリーの中からキーワードを3つ書き出しましょう。

--	--	--

ステップⅡ 内容確認

1. フォンさんはどんな時に悲しく、どんな時にうれしいと感じますか。また、それはどうしてですか。
2. フォンさんは、会社の同僚たちとどんなことで意見が食い違うと言っていますか。

ステップⅢ ディスカッション

1. あなたにとって一番大事な人はだれですか。また、それはどうしてですか。
2. あなたにとって親孝行とはどんなことですか。
3. 親の老後は誰が世話をすべきか、話し合しましょう。

発展活動 リサーチプロジェクト

親子関係・家族関係のあり方は、国や文化によってどのような違いがあるか調査・比較し、報告しましょう。

Word List

家族単位	as a family
もめ事	trouble
家族観	one's view of what a family should be
食い違う	to differ in opinion
実家	one's parents' home
みんながみんな～ではない	not everyone

大金(を)払う	to pay a large sum of money
感謝する	to be thankful
親孝行	to be a good son/daughter
同僚	colleagues
老後	old age
あり方	as it ought to be

■著者紹介

永田 由利子(ながた ゆりこ)

1949年神奈川県川崎市生まれ。71年、明治学院英文科卒、73年米国インディアナ州立大学応用言語学修士課程留学、75年同大学修士号取得。80年オーストラリアに永住。93年、オーストラリアアデレード大学博士(歴史)を取得、現在オーストラリア、クイーンズランド大学言語比較文化学科シニア・レクチャー(日本語教育)。

【著者】

Unwanted Aliens: Japanese Internment in Australia during WW2, University of Queensland Press, 1996

『オーストラリア日系人強制収容の記録』高文研, 2002

Navigating Boundaries: The Asian Diaspora in Torres Strait, 共著 Anna Shunukul and Guy Ramsay, 2004

Japanese Queenslanders: a history, Bookpal, 2007

■音声録音協力者

中西道也	伊藤由美子	納谷むつみ
小山千夏	小田隆史	島田直弥
熊谷洋三	ソドスチン	山口ユキ
Duong Thi Phuong	周艶陽	鮎田英一郎
新関剛史	ハツミ	原田聖恵
前柳裕之	タケロウ	水田有紀
佐藤良子	手塚由一	砂川三男

■タイトルコール

マスダユキ

■音声編集

狩生健志

■装丁デザイン

庄子結香(カレラ)

■装丁イラスト

阿部伸二(カレラ)

■担当・本文レイアウト

市川麻里子

Voices From Japan

ありのままの日本を知る・語る

2009年10月20日 第1刷 発行

[執筆] 永田由利子

[発行] くろしお出版

〒113-0033 東京都文京区本郷3-21-10
Tel: 03・5684・3389 Fax: 03・5684・4762
URL: <http://www.9640.jp> Mail: kurosio@9640.jp

[印刷] モリモト印刷

© 2009 Yuriko Nagata, Printed in Japan

ISBN 978-4-87424-453-1 C0081

乱丁・落丁はお取り替えいたしません。本書の無断転載・複製を禁じます。

著作権保護コンテンツ